

## TTC 提案山行実施記録表

2012年8月3日 報告者:関喜義

山行名	北ア 船窪岳(2,459m)・不動岳(2,601m)・南沢岳(2,625m)・烏帽子岳(2,628m) [長野県]								
実施日	2012年7月27日(金)～29日(日) 2泊3日 マイカ利用								
天候/参加人員	天候: 実行欄記載 レベル: ★★★ 参加者: 申込5名/実施5名(男3名/女2名)								
スタッフ	CL:、SL/計画:、会計:、救護:、写真: ドライバ: / スタッフ名削除								
参加者	氏名削除								
費用	集金: ¥127,500 (@25,500×5人) 支出: ¥127,100 <b>1人当り¥25,500</b> <b>カンパ金 ¥400</b> 支出内訳: マイカー使用料¥6,400 (@10×640キロ)、燃料代¥10,800 (@135×640/8) ドライバ謝礼¥10,000 (@5,000×2日)、タクシー代¥4,200 (@2,100×2台) 高速料金¥4,700(相模湖IC～豊科IC¥2,850+豊科IC～都留IC¥1,850) 温泉代¥2,500 (@500×5人)、船窪小屋宿泊代¥45,000 (@9,000×5人) 烏帽子小屋宿泊代¥42,500 (@8,500×5人)、計画者電話代¥1,000 収支差額: ¥400 (¥127,500-¥127,100) =カンパ金								
<b>計画と実行タイム(歩行/休憩/行動時間)</b>									
行動日	7月27日(金)			7月28日(土)			7月29日(日)		
時間区分	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動
ガトブック	6:00	—	—	6:50	—	—	4:00		
計画	5:35	2:05	7:40	10:00	1:30	11:30	4:15	0:20	4:35
実行	<b>5:35</b>	<b>1:55</b>	<b>7:30</b>	<b>9:40</b>	<b>2:30</b>	<b>12:10</b>	<b>3:55</b>	<b>0:20</b>	<b>4:15</b>
<b>実行コースタイム記録</b>									
<b>◆7/27(金) 天候:快晴 (累積標高差登り1400m/下り0m、歩行距離4km)</b>									
						1:45	1:00		
愛甲石田駅前==相模湖IC==諏訪湖SA==豊科IC==七倉山荘P(WC)——(休憩3回0:25)——唐沢のぞき——(休憩2回0:10)									
3:00	4:15	5:37/6:00	6:30	7:30/8:00	10:10				
		0:55	1:05			0:50			
—岩小屋—(昼食)—(休憩1回0:05)—鼻突き八丁取付き—(休憩5回0:35)—天狗の庭—(休憩1回0:05)—船窪小屋(泊)									
11:00	11:20-11:50	12:50		14:30/14:35			15:30		
<b>◆7/28(土) 天候:快晴 (累積標高差登り850m/下り800m、歩行距離9km)</b>									
0:20		0:55	3:35		1:20		0:55		
船窪小屋—テント場(WC)—船窪乗越—船窪岳—(休憩3回0:20)—(昼食)—(休憩1回0:10)—不動岳—(休憩1回0:05)									
5:30	5:50/6:00	6:35	6:55/7:05	11:00/11:20			12:50/13:00		
		1:10	0:55		0:30				
—南沢乗越—(休憩1回0:05)—南沢岳——(休憩/池塘観賞2回0:20)—烏帽子岳分岐——烏帽子小屋(泊)									
14:00		15:15/15:35		16:50/17:10			17:40		
<b>◆7/29(日) 天候:快晴 (累積標高差登り0m/下り1450m、歩行距離5km)</b>									
1:00		2:40		0:15					
烏帽子小屋—タヌキ岩—(休憩1回0:10)—不動沢吊橋(WC)——高瀬ダム==七倉山荘(入浴)==大町市内(しば田食堂)=									
5:55	6:55/7:00	9:50/9:55		10:10/10:25	10:25/11:50		12:30/13:30		
=松川道の駅==豊科IC==八ヶ岳SA==都留IC==愛甲石田駅									
13:45/14:00	14:20	15:20/15:35	15:55	19:30					

## コースの概要、特記事項、反省事項等

## ▼7月27日(金)

大町市の西側から流れ込む高瀬川上流に向かい車を進める。市街からすぐの大町ダム龍神湖は、テレビまんが「日本昔ばなし」のオープニングで映った童話「龍の小太郎」の伝説が残る湖だ。そこを過ぎてしばらくすると葛温泉、かつては裏銀座コースの登山基地としてにぎわっていた。さらに少し進むと左岸に七倉沢がそそぎ込み、そこに架かる橋の手前で一般車道が行き止まりとなる。七倉登山口だ。あの深田久弥は昭和32年8月、ここから湯俣温泉、鷲羽岳、三俣蓮華岳、双六岳、笠ヶ岳、槍見温泉、焼岳、中ノ湯まで抜け、そのときの記録の一部を昭和39年発行の日本百名山「笠ヶ岳」に展開している。

今回はSさんが車を出してくれた。Uさんを最後にピックアップし総勢5人で登ることになった。橋を渡り山ノ神トンネル入り口を右に折れて登り始めた。七倉尾根名物の鼻突き八丁が中盤からわれわれを出迎えてくれた。一丁が109m、この先の天狗の庭までしばらく急登が続く。時折白く咲くしゃくなげの群生に囲まれて休みながらも高度を稼ぐ。この登山を企てたWさんお勧めの船窪小屋へと近づいていった。植生が針葉樹林からハイマツへと変わるあたりから数多くの高山植物の花々が足元へ満開に敷き咲き、遠くには北アルプスの名立たる山々があちらこちらから順次顔を出してきた。果てしない連立の美しさがひろがっている。小屋に着いてもそれらを見飽きることはない。小屋周囲のコマクサもしっかりと根をはり色を添えてくれた。

船窪小屋はランプのともし火と手料理のうまさで知られるようになったが、小屋番寿子さんの労は推し量れるものではない。父親の宗市さんが昭和29年に船窪小屋を建てたが翌年雪崩で亡くなり、寿子さんが若くして小屋を継ぎ今日に至っている。同行のOさんと同世代だ。われわれが疲れきって外のベンチ付近に荷を降ろすと同時に、看板娘のトキちゃんが温かいお茶とサンダルをめいめいに差し出してくれた。まれな心遣いに頭がさがる。その夕飯の卓は想像以上に珍味に溢れ感謝をしつつ腹へ収めた。出迎えからささいなことまで十二分なおもてなしを受け、小屋番寿子さんの心意気が、余技にすぎないわれわれを温かくつつんでくれた。

#### ▼7月28日(土)

日の始まりはご来光に勝るものはないと思う。山の気が一面に澄んでいる朝を迎え大自然が目覚まさないうちに小屋を出ることにした。小屋番寿子さんが登山の無事祈願を込めて、われわれが見えなくなるまで小屋の鐘を適当な間隔を置いて鳴らしてくれた。七倉岳テント場を過ぎたあたりから昨年のリレー登山のフィナーレを飾った蓮華岳がよく見えてきた。南稜を覆う絶壁がすごく険しい。この蓮華岳大下りの経験者は皆「大キレットの方がまだマシ」と言っているのが見て肯ける。快晴で見晴らしがよかった。これから不動岳までは恐竜の背ビレの上を這いずるようなものだ。長く曲がりくねったそのまわりには、ぜい肉が一切ない、そり落ちている。子供が垂れたロープやハシゴで遊ぶように私の心もはしゃいでいたが、実際は緊張する神経をなかなか休ませてくれなかった。ただ幸いにも可憐な花々が次から次ぎへと種類を変えて現れ、メンバーの歓声は途切れることがなかった。さらに不動岳、南沢岳周辺に大きく広がるコマクサの群生地がわれわれに大きな安らぎを与えてくれた。それにしても近くの山々のにぎわいに比べると、ここは不遇をかこっているかのように静かな姿勢を保っている。奥深く個性のある山々のたたずみだ。

この裏銀座コースは加賀藩主前田利家が奥山廻り役を命じ、金沢から見て立山・白山の奥の山の国境警備と杉・檜・檜などの財産保持を役目として、実に明治3年まで約270年間続けていたという。その足跡が現在の登山道の原形となり私の心をとらえ続けてきた。登山道の萌芽をみることができからだ。江戸中期、大討伐者であった安曇郡の三吉が捕まり、以来木材の盗人は減ったが、三吉谷、三吉道、三吉小屋と名を残し、昭和初期までその名は使用されていたという。江戸時代中期の越中絵図には烏帽子岳が三吉岳と記されている。その烏帽子岳は船窪小屋から見ると鶏冠そっくりにまるで扇子を広げたようにのんびりとした格好であるが、南沢岳からは打って変わってピラミット以上に急峻な三角形となる。その直下に点在する池塘の庭園をすぎ、やっと烏帽子小屋に着いた。長かった。体力気力が消耗し皆言葉少なげに労をねぎらった。その夜はよく寝た。

#### ▼7月29日(日)

西側の山々が深く立ち、ひと足先に陽をしっかりと浴びている。高みにきたものだけが味わえる絶景だ。下山路のブナ立て尾根は調子よく途中に番号がふってあり、上から始まり12番で下の濁沢登山口となる。終始餓鬼岳を正面に据えて降りることになるが、その左手には急峻な七倉尾根をくっきりと望むことができる。おととい、あえぎながら登ったことがすごいと思うほど七倉ダムへ切り落ちている。一方の右手眼下には高瀬ダムが見え隠れしている。曾野綾子の小説「湖水誕生」の舞台へ降りたのは午前の10時を少し回っていた。小説は東洋一のダム建設のために家庭をふり向かない男たちを描いている。だがしかし、山の誘惑に勝てず家庭をふり向かないわたしがそこにまた立っている。その違いにいつもここで気づく。3日間とも天候に恵まれたため、疲れたら無理をせずゆっくりと、景色や花々に見惚れたら長く立ち止まり、歩くのに飽きたらまたちょっと休む。こうして時間を気にせず大自然と向き合い堪能することができた。全員が体力面でつらそうであったが北アルプスへの傾斜は一向におさまりそうにない。そのことが確信できる山行となった。

#### ▼特記事項

【登山道】①コース全般にわたり花崗岩の砂礫が多く滑りやすい。②船窪岳から不動岳の間はハシゴやロープが設置されているものの厳重な注意を要する。念のために1箇所ロープ確保を行った。

【計画変更】①2日目に七倉岳と烏帽子岳をピストン登頂する予定であったが、行程がロングでハードのため、初日のメンバー全体の体力を勘案すると計画以上に余裕をもたせたかったので中止した。

【反省点】①初日は深夜出発のため寝不足ぎみとなった。②2日目は想像以上に行程が長くアップダウンが続く、全員が体力をかなり消耗した。船窪小屋をもう少し早く出発すればよかった。③烏帽子小屋のホームページには到着が16時を過ぎないように注意書きがあり、それをCLが見逃していたのは準備不足だった。通常の夕食時間をすぎた場合は食事がでない。今回幸いにも簡単な夕飯をおいしく戴くことができた。